

韓国遠征（最終戦：第4戦）

2015年3月12日 10:00～11:30

Taeneung Training Center（韓国・ソウル）

日本 2-1 韓国

（第1クォーター0-0、第2クォーター0-0、第3クォーター2-0、第4クォーター0-1）

【得点】

31分 PC：北里謙治

45分 FG：宮崎俊哉

56分 PC：韓国

【スターティングメンバー】

GK：新本優

DF：粥川幸司、塩川直人、山下学、長澤克好

MF：小野知則、星卓、川上良平

FW：田中健太、北里謙治、三谷元騎

【サブメンバー】

GK：高橋優成

DF：膳棚大剛、佐々木拓郎

MF：山部晃嗣、落合大将

FW：藤本一平、宮崎俊哉、小沢諒

【DNP】

村田和麻

【交代】

4分：膳棚大剛、山部晃嗣

6分：落合大将、藤本一平、宮崎俊哉、小沢諒

7分：佐々木拓郎

【マッチレポート】

最終戦はこれまでの試合の反省から、プレスの方法をより積極的なプランに変えて試合に臨んだ。

第1クォーターからプレスの変更が功を奏し、韓国からボールを奪い、カウンターを軸にサークルを陥れるがシュートまで持ち込むことができない。

第2クォーターに入り、28分日本はビルドアップのボールをレフトからライトへ展開し、ライトの三谷がDF 粥川からのラインボールを引き出すと、ボールを受けた三谷はスピードに乗った巧みなドリブルからサークルインし PC を取得。しかしこの PC の北里のドラッグフリックシュートは GK に阻まれ得点ならず。その後韓国は第2クォーター終了間際にサー

クルへ向けたパスから PC を取得。この PC のドラッグフリックシュートを 1 番騎の山下が身体を張って死守し、前半を 0-0 で折り返す。

第 3 クォーター立ち上がり 31 分、日本は粥川からのロングボールを受けた三谷がまたもドリブルから韓国サークルに進入し、PC を取得。この PC を北里がドラッグフリックシュートからゴール左下に決め、今遠征で初となる先制点を奪う。その後は韓国に押し込まれ苦しい時間帯が続くが、日本は集中力を切らすことない守備で得点を与えない。その後日本は、第 3 クォーター終了間際 45 分にサークルトップで得たフリーヒットを、藤本のドリブルからパスを受けた三谷がサークルインし、最後は宮崎がゴール前でのタッチシュートを決めて、2 点のリードを韓国から奪う。

最終第 4 クォーター意地でも負けられない韓国は、得点を奪いに何度も日本ゴールに迫る。しかし日本 DF も冷静に対応し得点を与えない。56 分韓国はレフトから日本サークルに侵入し PC を取得。韓国はこの PC をドラッグフリックシュートのリバウンドを拾い、1 点を返すが時既に遅し。日本の組織化された守備をこれ以降崩すことはできず、試合終了。

完封を逃した日本であったが、練習試合であつとはいえ実に 10 年以上振りに韓国代表から勝利を収めた。

今遠征では 3 戦目までは非常に厳しい試合が続いたが、世界ランキング 8 位の韓国を相手に、敵地でしかもアンパイアも両名韓国人という完全アウェーの中での 4 試合は、ワールドリーグセミファイナルへ向け、非常に充実した遠征となった。

記載責任者：男子代表コーチ 藤原信幸